

(別表 1)

事業継続力強化支援計画

事業継続力強化支援事業の目標

1 現状

(1) 地域の災害リスク

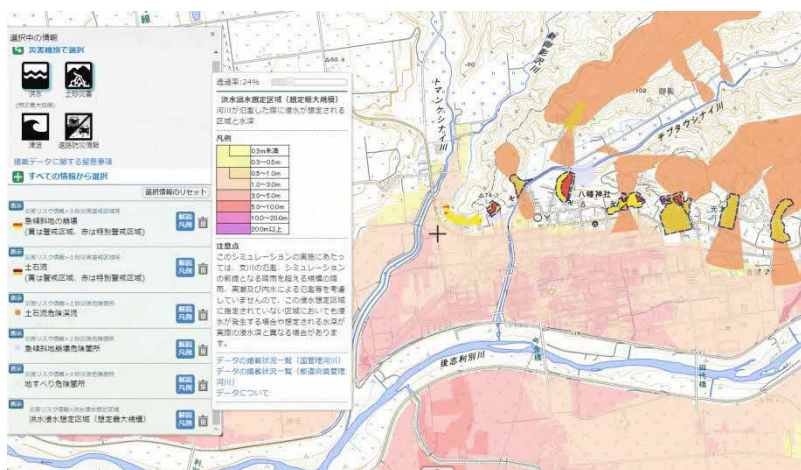
(洪水：国土交通省ハザードマップ)

今金町には一級河川後志利別川が流れており、後志利別川が氾濫した場合の浸水想定区域は、国土交通省ハザードマップポータルサイトによると、国道 230 号沿線の中心市街地は浸水地域に含まれており、市街地のほとんどが 0.5～5m の浸水域とされている。

この内、3 m 以上の浸水域に位置する小規模事業者は 24 者である。

(土砂災害：国土交通省ハザードマップ)

国土交通省ハザードマップポータルサイトによると、今金町の中心市街地（国道 230 号線）より北部の数ヶ所が、土石流による土砂災害警戒区域に指定されており、この区域内は小規模事業者 10 者が位置している。



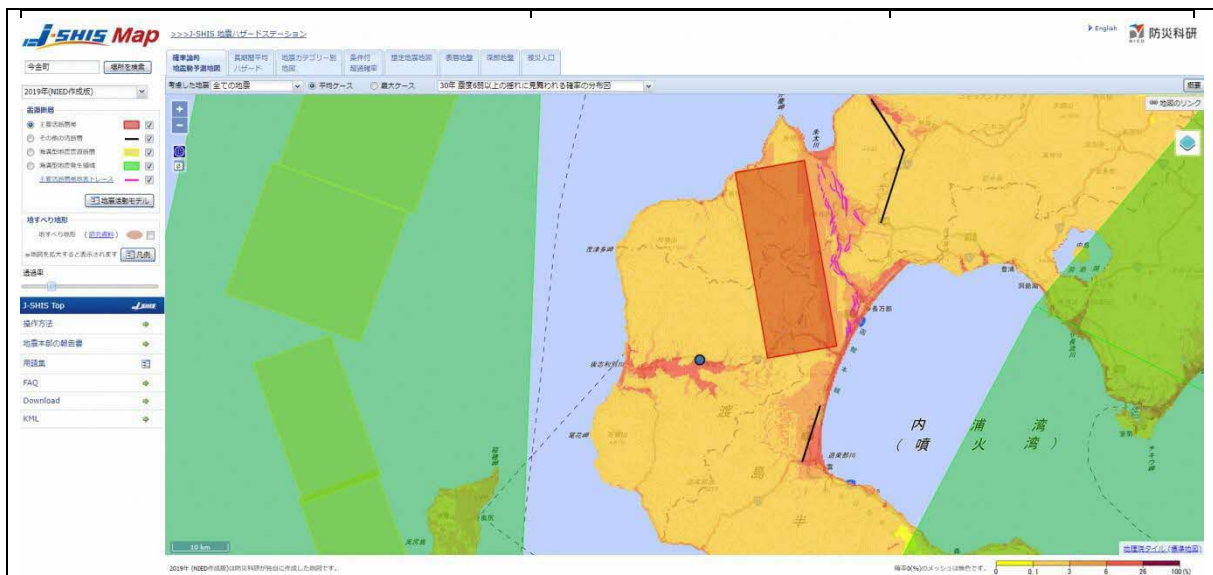
(出典：国土交通省ハザードマップポータルサイト)

(地震：J-SHIS ハザードマップ)

今金町に影響を及ぼす可能性のある地震は、J-SHIS 地震ハザードマップによると 4 つの断層帯による地震が想定されている。そのうち最も影響が大きいと考えられるのは「黒松内低地断層帯」と「八雲断層帯」となっており、マグニチュード 6.5～6.8 の地震が想定されており、30 年以内の発生確率は 3.66～3.68% となっている。

また、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる地震の発生確立が 9% 程度となっているが、1993 年の北海道南西沖ではマグニチュード 7.8 の地震による家屋の倒壊や液状化現象などの被害があった他、直近では 2018 年の胆振東部地震ではブラックアウトが発生しており、町内でも電力が復旧するまで商品の廃棄や物流が途絶えた影響などにより売上が減少するなどの被害を受けたことを考慮すれば、いつ災害が発生してもおかしくないという準備・警戒が必要である。

地震	マグニチュード	地震発生確率 (30 年以内)
黒松内低地断層帯	6.8 程度	3.66%
八雲断層帯	6.5 程度	3.68%
海溝型地震震源断層 (北海道南西沖)	7.8 程度	1.55%



(出典：J-SHISハザードマップ)

(その他)

当町は、渡島半島北部に位置し、東は長万部町、西はせたな町、南は八雲町、北は島牧村に面し、海がなく地震や津波などによる人命にかかわるような大災害は近年起きていないものの、台風や大雨による災害が度々発生している。

なお、当町の気候環境は日本海を北上する対馬暖流の影響を受け過去10年の平均気温は9.7℃と北海道内でも温暖な地域である。冬は季節風の影響で雪も多く、内陸部のため1月の平均気温は-3.9℃と低いが、夏は風も弱く、8月の平均気温は21.7℃と高い。しかし、内浦湾から冷たい東風（ヤマセ）が吹くと夏でも気温が急に下がり、低温と日照不足から農作物に被害を及ぼすことがある。

《過去における主な災害記録》

年月日	種別	災害発生概要	建物被害(棟)	農業被害(ha)	土木被害(ヶ所)	その他の被害	被害総額
H5. 7. 12	地震	北海道南西沖地震 マグニチュード7.8 震度5強～6弱 (今金町)	全壊 4棟 半壊 8棟 一部 177棟	農地 田・畑 281.6ha 農作物 田・畑 729.0ha など	河川 56ヶ所 道路 76ヶ所 橋梁 2ヶ所 砂防 3ヶ所 など	林道 43ヶ所 水道施設 5件 商工業 75件 人的被害 15名 (重傷1名、軽傷14名)など	67億 8,000万円
H28. 8. 30	風害	台風10号による 風害 最大瞬間風速 31.7m/s	半壊 11棟 一部 48棟	農業用施設他 687ヶ所	河川 2ヶ所 道路 23ヶ所 公園 6ヶ所	林地 1ヶ所 林道 13ヶ所 商工被害 11ヶ所 など	4億 5,535万円
H30. 9. 6 ～9. 7	地震	北海道胆振東部地震 による「停電被害」		畜産被害 24戸	—	商業被害 16件	6,920万円

(出典：今金町地域防災計画)

(感染症)

新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症は、人から人に感染するウイルスを病原体とする感染症であって、ほとんどの人がこれら新型の感染症に対する免疫を獲得していないため、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されている。

(2) 商工業者の状況

- ・商工業者等数 192人（独自データ）
- ・小規模事業者数 170人（経済センサス）

業 種		商工業者数	小規模事業者数	備 考
商工 業者	建 設 業	36	30	町内に広く分散
	製 造 業	11	11	〃
	卸 売 業	1	1	市街地に集中
	小 売 業	42	42	〃
	飲 食 業	27	22	〃
	サービス業・その他	75	64	町内に広く分散

(3) これまでの取組

1) 当町の取組

項 目	年 月	備 考
今金町防災会議条例	S38. 4	
今金町地域防災計画	H 2. 3	
防災訓練の実施	R 1. 9	一日防災学校
	R 1.10	避難訓練、防災を考える集い
防災備品の備蓄	—	飲食物（缶詰パン1,500缶、飲料水456ℓ、保存食400食） 生活必需品（毛布2,000枚、トイレセット36セットなど）
今金町新型インフル エンザ等対策行動計画	H26. 4	

2) 当商工会の取組

当会のこれまでの取組みは、災害復旧貸付制度の周知や、損害保険制度の周知や加入促進に留まっており、具体的な事業継続計画の策定に関しては積極的な取組みを行っていなかった。また、組織内での緊急時の体制や取組内容、関係機関との連携体制等については構築していなかったことから、実施推進体制・内容の見直しが必要である。

項 目	年 月	備 考
災害復旧貸付制度の周知	R 2. 4	広報記事掲載（北海道・日本政策金融公庫資金）
損害保険への加入促進	随時	巡回時のパンフレット配布及び保障内容の説明

2 課題

- ・緊急時の取組についての定めが漠然としており、協力体制の重要性について具体的な体制やマニュアルが整備されていない。
- ・実施推進体制の構築及び責任者の強いリーダーシップの下での推進が必要となるが、ノウハウをもった人員が十分にいない。
- ・支援計画の考え方や内容が職員間で浸透するための訓練や教育が行われていない。
- ・小規模事業者に対し予防接種の推奨や手洗いの徹底についての周知が十分になされていない。
- ・体調不良者を出勤させないルール作りや感染拡大時に備えてマスクや消毒液等の衛生品の備蓄、リスクファイナンス対策として保険の必要性の周知が十分になされていない。

3 目標

- ・地域内小規模事業者に対し災害リスクを認識させ、事業継続力強化計画策定の必要性を周

知する。

- ・発災時における連絡体制を円滑に行うため、当商工会と当町との間における被害情報報告ルートを構築する。
- ・発災後速やかな復興支援策が行えるよう、組織内における体制、関係機関との連携体制を平時から構築する。

・成果目標

業 種	商工業者数	小規模事業者数	策定目標（事業継続力強化計画）				
			R3	R4	R5	R6	R7
建 設 業	36	30	1	1	1	1	1
製 造 業	11	11	0	1	0	1	0
卸 売 業	1	1	0	1	0	0	0
小 売 業	42	42	1	1	1	1	1
飲 食 業	27	22	1	0	1	1	1
サービス業・その他	75	64	1	1	1	1	1
合 計	192	170	4	5	4	5	4

※策定目標については、土砂災害警戒区域に位置する小規模事業者 10 者及び洪水浸水想定区域の 3m 以上に位置する小規模事業者 24 者を優先し、この内、商工会における人員体制を考慮したうえで、本計画期間において当該区域に位置する小規模事業者 22 者が事業継続力強化計画を策定するよう設定した。2 期目については、残りの 12 者を優先し小規模事業者の計画策定を図る。

・実施目標

項 目	目 的	目 標	
事前対策の必要性を周知	地区内小規模事業者に対し災害リスク・感染症等リスクを認識させるとともに事前対策としての計画策定の重要性を認識させる	セミナー開催	隔年 1 回
計画策定の支援に向けた内部協議	事業継続力強化計画策定希望事業者へ円滑に支援するため職員間の連携と意思疎通を図る	職員会議及び勉強会の開催	年 1 回
保険・共済普及に向けた体制づくり	保険・共済に対する助言・加入手続きを行うための職員の育成と連携を図る	職員会議及び勉強会の開催	年 1 回
連携体制の推進	組織内や関係機関と発災後・感染症発生時に速やかな復興支援策が行える体制の構築	連携会議開催	年 1 回

4 その他

- ・経営発達支援計画評価委員会に合わせて事業継続力強化支援計画評価委員会を年 1 回開催し、状況や環境の変化による計画の見直しを行う。
- ・上記内容に変更が生じた場合は、速やかに北海道経済部中小企業課へ報告する。

事業継続力強化支援事業の内容及び実施期間

5 事業継続力強化支援事業の実施期間（令和3年4月1日～令和8年3月31日）

6 事業継続力強化支援事業の内容

- ・当商工会と当町の役割分担及び体制を整理し、連携して以下の事業を実施する。

今金町	今金町商工会
防災関連の情報提供	セミナー・個別相談会の開催事業
事業継続力強化計画策定に係る 助言・指導	継続力強化計画策定支援・ フォローアップ
災害リスクの周知	
関係団体との連携	
防災訓練の実施	
応急対策時の対策及び復旧支援	

(1) 事前の対策

- ・事業継続力強化支援計画を商工会と行政が共有することにより、自然災害発生時や感染症発生時に混乱なく応急対策等に取り組めるようにする。
- ・日常的に災害の発生に備える意識を高め、自ら防災対策を実施する。

ア. 小規模事業者に対する災害リスクの周知

- ・巡回経営指導及び窓口相談業務の際、過去における災害記録やハザードマップ等を用いながら、事業所の現状と災害等のリスク及びその影響を軽減するための取組や対策の重要性について説明を行う。
- ・商工会が発行する会報やホームページ、各会合等において本計画を公表するほか、「事業継続力強化計画」の重要性や、策定した際の支援措置などの紹介を行う。
- ・事業継続力強化の取組に関する専門家を招き、小規模事業者に対する普及啓発セミナーを実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症は、いつでも、どこでも発生する可能性があり、感染の状況も日々変化するため、事業者には常に最新の正しい情報を入手し、不確定情報に惑わされることなく、冷静に対応することを周知する。
- ・新型コロナウイルス感染症に関しては業種別ガイドラインに基づき、感染症拡大防止策について事業者への周知を行うとともに、今後の感染症対策に繋がる支援を実施する。
- ・事業者へ、マスクや消毒液等の一定量の備蓄、事務所内換気設備の設置、ITやテレワーク環境を整備するための情報や支援策等を提供する。

イ. 商工会自身の事業継続計画の作成

- ・当商工会は、令和4年3月までに事業継続計画を策定予定

ウ. 関係団体等との連携

- ・保険会社等に専門家の派遣を依頼し、会員事業者以外も対象とした普及啓発セミナーや保険内容の紹介等を実施する。
- ・感染症に関しては、収束時期が予測しづらいこともあり、リスクファイナンス対策としても各種保険（生命保険や傷害保険、感染症特約付休業補償など）の紹介等も実施する。

- ・関係機関への普及啓発ポスターの掲示、セミナー等の共催依頼を行う。

エ. フォローアップ

- ・小規模事業者の事業継続力強化計画等の取組状況の確認（年1回実施）

業 種	商工業者数	小規模事業者数	策定件数					フォローアップ回数					
			R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7	
建設業	36	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
製造業	11	11	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0
卸売業	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
小売業	42	42	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
飲食業	27	22	1	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1
サービス業・その他	75	64	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	192	170	4	5	4	5	4	4	4	5	4	5	4

- ・事業継続力強化支援計画評価委員会において、状況確認や改善点等について年1回協議し、本計画に記載した事業の実施状況及び評価検証を行う。また、評価結果はHPへ掲載することで地域の小規模事業者等が常に閲覧可能な状態とする。

オ. 当該計画に係る訓練の実施

- ・自然災害（震度6弱の地震）が発生したと仮定し、当町地域防災計画を基に連絡ルート等の確認を行う。

実施時期	デ・モーレン今金の防災設備点検と合わせて年1回実施 (檜山広域行政組合 今金消防署)
訓練内容	発災後の連絡手段等の確認 発災後の指示命令系統・連絡体制の確認
訓練連携先	今金町まちづくり推進課

カ. 発災時における被害報告基準について

- ・被害認定基準及び被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定方法については、あらかじめ当町まちづくり推進課と協議し、策定する。

(2) 発災後の対策

- ・自然災害等による発災時には、自身の安全確保、人命救助を第一とする。そのうえで、次の手順で地区内の被害状況を把握し、関係機関と連携した行動に繋げる。

ア. 応急対策の実施可否の確認

- ・発災後3時間以内に携帯電話等を利用して職員とその家族の安否確認を行う。
連絡方法の優先順位 ①電話 ②メール（ショートメール・Eメール等） ③SNS（LINE・メッセージ）
- ・安否確認後、近隣の大まかな被害状況、業務従事の可否について SNS のグループ機能等を活用し、情報の共有を行う。
- ・管轄保健所による指導や新型インフルエンザなど対策別措置法による、道知事からの感染防止に必要な協力要請に基づき、当会による感染対策を行う。

イ. 応急対策の方針決定

- ・今金町災害対策本部の方針に従い、当町まちづくり推進課と連携をとり実施に向けた役割分担・スケジュールの作成を行う。また、職員自身の目視で命の危険を感じる自然災害等の状況の場合は出勤せず、まず自身の安全を確保し、安全確保がされた後に出勤する。
- ・配備体制及び被害規模の目安は下記を想定する。

種別	配備の時期	配備要員
出勤	<ul style="list-style-type: none"> ・広域にわたる災害の発生が予想される場合、若しくは被害が甚大であると予想される場合 ・町内に震度6弱以上の地震が発生したとき ・予想されない重大な災害が発生したとき ・気象特別警報が発表されたとき 	全職員
警戒	<ul style="list-style-type: none"> ・局地的な災害の発生が予想される時又は災害が発生したとき ・町内に震度5弱又は5強の地震が発生したとき 	事務局長 経営指導員
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・気象業務法に基づく気象に関する防災気象情報が発令され、災害の発生が予想される時 ・町内に震度4の地震が発生したとき 	事務局長 経営指導員

- ・本計画により、当商工会と当町は、被害状況等を下記により共有する。

発災後～1週間	1日に3回共有する
1週間～2週間	1日に2回共有する
2週間～4週間	1日に1回共有する
1ヶ月以降	2日に1回共有する

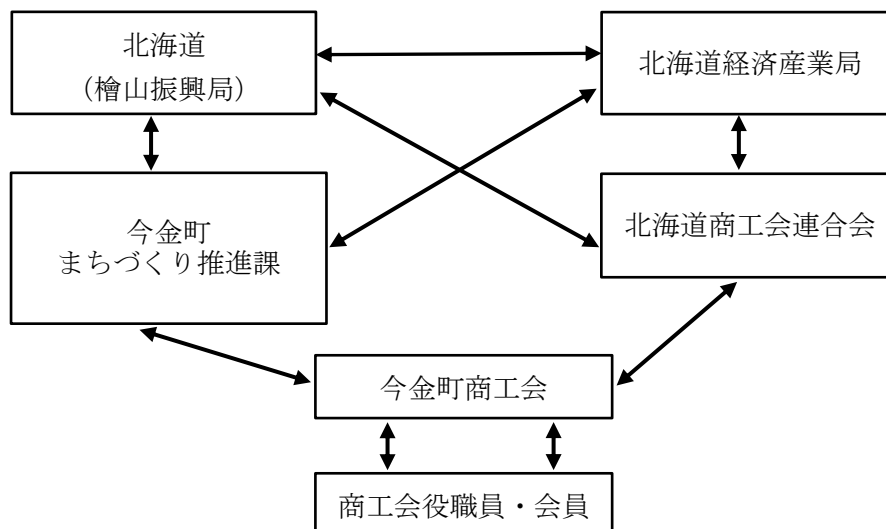
- ・当町で取りまとめた「今金町新型インフルエンザ等対策行動計画」を踏まえ、必要な情報の把握と発信を行うと共に、交代勤務を導入する等体制維持に向けた対策を実施する。

(3) 発災時における指示命令系統・連絡体制

- ・自然災害等発生時に、被害を最小限に防止するため迅速かつ強力な指示命令系統・連絡体制を構築する。
- ・二次災害発生への恐れのある個所に対して、情報を共有し報告体制を整備することで発生防止措置に繋げる。
- ・当商工会は原則、被害状況確認報告書にて、メールまたはFAX等により情報共有又は報告を行う。
- ・被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定については、あらかじめ町と定めた方法により確認する。
- ・当商工会と当町が共有した情報について、道の災害情報報告取扱要領に基づき指定する方法にて、檜山振興局及び北海道商工会連合会に報告する。
- ・被害状況確認報告書様式

事業所名	住所	業種	被害額	被害状況（建物・機械設備・商品など詳細に記載）
1				
2				
3				

・災害情報等報告取扱要領の報告方法



(4) 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援

- ・地域内小規模事業者等の被害状況について、あらかじめ町と定めた方法により確認する。
- ・相談窓口の開設について当町と相談し、安全性が確認された場所に設置する。
- ・被災事業者を対象にした補助制度等の施策について、地域内小規模事業者等へ周知する。
- ・損害保険、各種給付金や補助制度等の申請手続きの支援を行う。
- ・感染症の場合、事業活動に影響を受ける、またはその恐れがある小規模事業者を対象とした支援策や相談窓口の開設等を行う。

(5) 地域内小規模事業者に対する復興支援

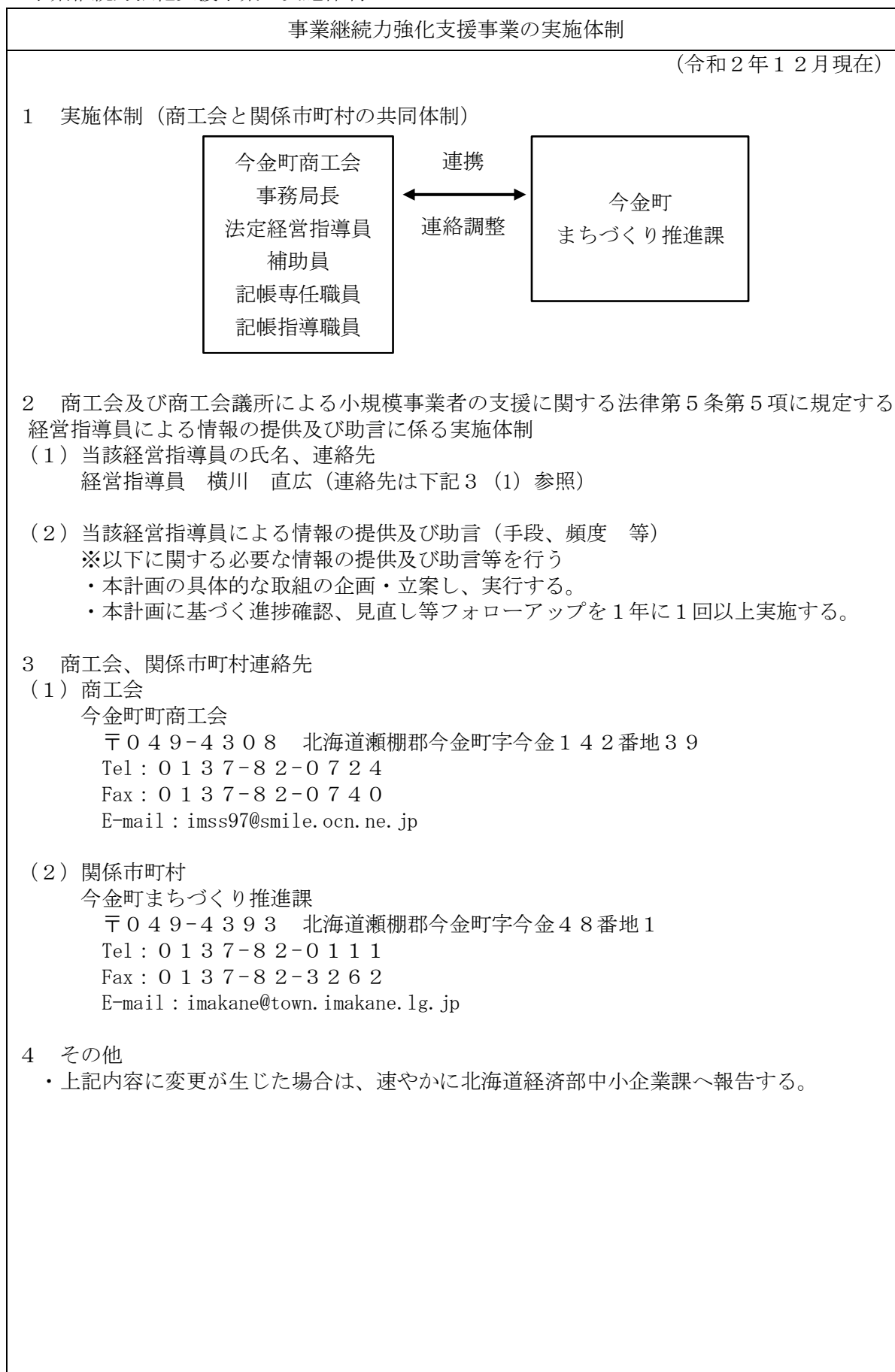
- ・今金町の方針に従って復旧・復興支援の方針を決め、被災小規模事業者に対し支援を実施する。
- ・被害規模が大きく、被災地の職員だけでは対応が困難な場合には、他の地域からの応援派遣等を北海道や北海道商工会連合会に相談する。

(6) その他

- ・本計画は、今金町・今金町商工会のHP及び広報誌や各会合等において公表し、支援小規模事業者に対する防災・減災対策についての周知を広く行うこととする。
- ・本計画内容に変更が生じた場合は、速やかに北海道経済部中小企業課へ報告する。

(別表 2)

事業継続力強化支援事業の実施体制



(別表3)

事業継続力強化支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
必要な資金の額	105	95	105	95	105
・専門家派遣費	65	65	65	65	65
・セミナー開催費	10	0	10	0	10
・パンフ、チラシ作成費	15	15	15	15	15
・防災、感染防止対策	15	15	15	15	15

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、補助金、事業収入等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。